

自動車運搬船のお披露目式・見学会における 日本船主協会展示コーナーの様様

日本船主協会会員会社(川崎汽船)が 2016 年 2 月 12 日～13 日、横浜港大さん橋国際客船ターミナルにて自動車運搬船「DRIVE GREEN HIGHWAY*」のお披露目式・見学会を開催した。当協会は、この機に合わせて同ターミナルの一角で、海運の役割や船員の仕事をパネル展示などにより紹介した。

船内の見学会自体は全て事前登録制であったが、12 日(金)朝から各テレビ報道も多く放映されたため、船内見学を希望していた方々をはじめ一般の方々も多く来場された。同展示コーナーでは、見学関係者のみならず、珍しい大きな船を見にきたという多くの一般の方々が、当協会の展示パネルや DVD なども興味深く見入った。



中でも、お子様の自由研究のためにと DVD やパンフレットをお持ちになったり、「将来船員になるかもしれないから…」と隣にいるお子様の背中を押す熱心な親御さんがいたり、これまであまりなじみのない海運業に触れることができた方々からは新鮮な驚きを感じられた。

また、当協会スペースに並んで出展した日本海事広報協会コーナーでは、お子様たちが船のぬり絵を楽しく真剣に描いていた。

当協会スタッフも最後に船内見学に体験参加することができたが、一見学者視点から初めて自動車運搬船の中に入って見て勉強になることが多くあった。徒歩で



ランプウェイをのぼり、船内入口から始まる足元の床の穴(ラッシングホール：車などをベルトで固定する際使う)がどこまでも続く。天井が低いので、背が高いドライバーは常に頭上注意だ。入り口は本船の 5 階にあたり、13 階まで長く歩き、ラッシングホールが常に気になり、その薄さが 6 ミリであることを知ると予想外

に恐怖感を抱く。やはり DVD や本でわかっていたようでも、体験なしでは実感できないことばかりだ。短時間だったが、次はいつ会えるかな…となぜか本船に愛着もわいてきた。当日見学できたお子様たちも、できなかった方々も、実際の船を見てどのような感想を持たれたことだろうか。

当協会は、今後もこのような機会をとらえ、海運への理解を深めるための広報活動を積極的に継続していく。



* DRIVE GREEN HIGHWAY : 7,500 台積み自動車運搬船。本船の建造は、最先端の技術を結集して究極の省エネと環境保全を追求。

以上